



センター通信8月号

～地域医療実習を終えて～

中津川市地域総合医療センター 高橋春光

皆様にご協力頂きまして、去る5、7月に名古屋大学医学部6年生4名が当センターで地域医療実習を行いました。実習にご協力頂きました皆様はもちろんですが、患者様、利用者の皆様ここに改めて当センターよりお礼申し上げます。ありがとうございました。学生より皆様へのお礼と共にメッセージを預かっておりますので、ここにお知らせさせていただきます。

- ① 中津川での二週間の実習を通じて、大学での実習とはまた違った総合診療科の形や、地域で実際に患者さんがどのように生活しているのかの一端を体験することができました。実際に地域の皆さんとお話しさせていただいたり、医師不足の地域の診療を見学させていただくことでいろいろと考えさせられました。将来的に何らかの形で地域の皆さんの健康に貢献できたらと思います。
- ② 地域医療、および地域包括ケアについては、講義で様々な理念や制度について学びますが、現場でどのような人が、何を考え、どういった課題と向き合っているかを実感できる機会は希少なものと感じています。今回の実習では、地域医療をより現場に即した形で知ることができ、大変勉強になりました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- ③ 「地域医療」という言葉、行政の仕組み、地域医療の大切さなどは何度も勉強してきました。しかし、実際に目にするとイメージが全然違いました。決して恵まれた資源ではない中で、地域の高齢者の方も市役所や診療所の方々もみんな力強く生活されている様子は印象に残っています。歩いて大丈夫なのかと思うような方でも、畑仕事をして独りで暮らし診療所に通われている。それは生きるためであり自分の存在意義があるからなのだと教えていただき、納得しました。社会の中に、家族の中に自分の役割があるというのは生きていく上でも病気にならないためにも必要なのだと分かりました。また、医者はただの地域の部品に過ぎない、みんなが自身の役割を果たし地域の方に寄り添っていく。そういった連携をとっている姿を見ることができて、これからの進路を考える上で参考になりました。どうしても試験勉強や知識に偏りがちですが、大切なことはまわりを見渡すことで見えてくるのではないかなと思います。

- ④ 2週間、中津川市の医療、介護、福祉の現場を、その一部だけですが見学させていただき、医療にできること、できないことというのを改めて考える機会となりました。また地域の介護、福祉に携わっている方々のお話を伺う中で、大学病院での実習とは違った視点からの考え方に触れる機会となりました。貴重な機会をいただきましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

現在、医学教育の場は、病院より診療所、地域へ移っています。それは診療所、地域でしか学べないものがあるからです。医学教育を担うのは医師ではありません。学生や研修医などの学習者に関わる皆様が、学習者を育てます。今後も当センターで地域医療実習、研修を行う予定です。改めて皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。